



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

中野鷺ノ宮雲母保育園



テーマ【 音の聞こえ方出し方 】

設定した理由・背景

子ども達が集中して話を聞けるようにするため、保育者が音に関する関りで注意を引くことがある。子ども達にとっては楽しみの一つにもなり、日常生活での音にも興味を持つ姿が見られるようになった。身近な音に更に目を向け、子ども達の気づきや疑問を引き出し、音の面白さを追求する。

用意した環境設定

- ・様々な音を知る環境を準備した
- ・購入物品
パーカッションセット、タンバリン、トライアングル、鉄琴、木琴、電子ピアノ

活動のあゆみ

- 6月身近な音探し
身の回りには、音があふれていることを知る。
- 7月風鈴の音色、音が出る原理を知り、風鈴づくりを行う。
- 8月朝の会で音階の違いを考える活動を開始、継続して行う。
- 10月鍵盤ハーモニカを弾く活動を行う
自由に音を出す。友達と音を合わせる。
- 11月打楽器を鳴らす活動を行う
種類の異なる楽器と一緒に鳴らす。
知っている曲の音階を探す。
- 12月全員で一つの曲を演奏する
1月生活発表会で、音階を習得した様子や合奏を披露する。

✧探究活動の実績✧

絵本「じゃあじゃあびりびり」を読み聞かせ、子どもたちに「本当に水はじゃあじゃあ音がしているのかな」「紙は破くとびりびり音がしているのかな」という問いかけから探究活動を開始した。子どもたちからは「そうだよ」と声上がり、実際に行った。水を流すと「じゃあじゃあみために聞こえる時もあるけど、水の量によって聞こえ方が違う」ことに気が付いた。そこから保育園の中で音探しが始まった。壁やテーブルに耳を当てると「ざざざざー」と音がする。ソファに耳を当てると「ふわふわ」と音がする。事務所では何もしてなくても「ジー」と音がする。子どもたちは耳で聞いたことを一生懸命言葉で表現する姿が見られた。戸外ではどんな音がするか意識して聞いてみると車や飛行機、足音が聞こえると声が上がった。普段無意識に遊んでいる公園でもこんなに音があるんだと気づきがあった。そしてある戸外活動中に風鈴の音が聞こえた。とても心地の良い音だった為、しばらく聞き入っていた。すると「私も欲しいな」と声が上がったため、みんなで作ってみることにした。カプセルに鈴や細かく切ったストロー、ビーズ等様々な素材を用意した。カプセルに素材を入れ音を鳴らしながら好みの音を探した。次第に「楽器みたいだね」という子がおり、曲を流すと曲に合わせて自由に鳴らす姿が見られた。「去年の発表会でやったカスタネット楽しかった」という子がいた。そこで太鼓、木琴、鉄琴、タンバリン、トライアングル、カスタネットを出してそれぞれの音に触れてみた。叩くとそれぞれ違う音がし、音を楽しむ姿が見られた。「どうやって音が鳴っているのかな」「なんで音が違うのかな」という保育者の声かけに音が違うのはそれぞれ素材が違うからという答えがでた。どうやって音が出るのかは「タンバリンは叩くと周りのやつが揺れて音が鳴るけど他の楽器は目に見えないから分からない」という子がいた。そこで保育者が調べ「振動で音が鳴る」という事を子どもたちに伝えた。振動を目で見るために太鼓にビー玉を乗せて叩いてみると小刻みに上下に動く様子を見ることができ「これが振動か」と納得していた。その後自由に楽器に触れていたが部屋中に音が鳴り響き耳を塞ぐ子がいた。「楽器を綺麗な音で聞くためにはどうしたらいいかな」という声かけに「優しく叩く」「同じリズムで叩く」と声が上がった為、曲に合わせてリズムを叩いてみると「演奏会みたい」と笑顔が見られた。「もっと上手になりたいな」「お友達とやると楽しい」と声が上がった。そこで生活発表会で演奏を披露することに決まった。楽器から出る音の重なりや友達と心をつなげて奏でることの楽しさや喜びを感じる活動となった。



机の音を聞く様子



楽器を鳴らし、音の違いを感じる様子



演奏会に向けて練習に取り組む様子

まとめ音探しの活動では「どんな音がするかな」とワクワクした気持ちで主体的に活動していた。視覚的には音になる要素がないものに対しても、子ども達は物体にピタリと耳をつけて聞こうとしており、固定概念にとらわれない、子どもならではの豊かな発想を感じた。結果を嬉しそうに保育者に伝える姿や友達に教える表情は非常にいきいきとしており、探究活動に楽しみを感じている様子がうかがえた。子どもたちの声を拾うことで活動がどんどん展開いき、今後も、子どもたちの気付きを大切に、活動を広げていきたいと感じた。年度末の生活発表会では、子ども達の一年間の成長に併せて、探究活動を通じて子ども達を感じたことや学んだことを保護者に知ってもらう良い機会となった。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

中野鷺ノ宮雲母保育園



テーマ【 言葉と異文化 】

設定した理由・背景

外国籍の園児が複数在籍しており、日頃から身近な存在として関わり合っている。互いの文化の理解を理解し、より深く交流することを目的として設定した。

用意した環境設定

- ・英語を身近に感じられるような環境を用意した
 - ・購入物品
- プロジェクター、パソコン、ケーブル、ケース、スクリーン、英会話受講

活動のあゆみ

4月～3月毎週火曜日にオンライン英会話を受講する。

英語の歌、単語、読み聞かせ、カード遊び

- 1 2月保護者と英語でおしゃべり会を行う。
- 3月保護者と英語でおしゃべり会を行う。

✽探究活動の実績✽

保育者からの「みんなが話す言葉はみんな同じ」という問いかけに「違うよ。〇〇君のお父さんは違う言葉話を話してた」と声が上がって探究活動が始まった。「日本語以外に何語があるのかな」という問いかけに子どもたちからは「英語、中国語、ネパール語」が出てきた。「中国の人と話したいときはどうしたらいいかな」という問いかけに「中国語を勉強する」と声が上がると、同様に「ネパールの人と話するにはどうしたらいいか」と言う問いかけにも「ネパール語を勉強する」という声が上がった。「たくさんの国の言葉を覚えるのは大変じゃない」という問いかけに「みんな日本語を勉強したら話せる」と答える子がいた。そこで世界共通語が英語であることを伝えると「英語が話せたら色々な国の人と話せるの」「友達たくさんできるね」と声が上がった。週に一度のオンライン英会話を実施すると初めは知らない言語に戸惑う姿が見られ、活動に控えめな姿があった。回数を重ねるにつれ、簡単な単語を覚えていき、玄関で外国籍の保護者に会った時には自ら「ハロー」と声をかける子もいた。英会話では講師に質問する時間があり、慣れてくると積極的に手をあげて質問する子がいた。聞きたいことがあるけど質問の仕方や単語が分からない中「どうやって言ったらいい」と保育者に聞き、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。カードを使った活動もあり楽しく英単語を学ぶことが出来た。冬頃には簡単な英語を話すことにもだいぶ慣れ、発表会では英語での自己紹介に挑戦した。名前、年齢、好きな物といった簡単な内容だったが、人前で堂々と発表する姿が見られた。そして、英語が話せる保護者2名にご協力いただき、英語でのグループディスカッションを行う機会を設けた。1回目は、知っている単語が少し出てくると「少しだけ分かる」と質問に笑顔でうなずく姿が見られた。2回目は出てくる単語が増えたが以前より盛り上がり楽しそうにコミュニケーションをとる姿があった。活動を通して様々な人と話してみようという気持ちが育ってきた。



英会話内でカードを使った活動の様子



保護者と英語でディスカッションする様子

まとめ 活動を通して、楽しみながら英語や異文化に触れることが出来た。英語が完璧に話せなくても伝えたい、どうしたら伝わるかなという気持ちを大切に、楽しくコミュニケーションをとる方法を身につけていた。保護者の協力を得て行った英語でのグループディスカッションでは、分からなくても何とかコミュニケーションを取ろうとする姿が印象的だった。英語でのグループディスカッションは、初めての取り組みで戸惑うこともあったが、ご協力いただいた保護者からも進め方や内容のご提案があり、園の職員だけではなく、保護者と一緒に考え、共に支え合いながら探究活動を行うことが出来たように感じられ嬉しかった。地域柄、異文化に触れる機会が多いので、この活動が子ども達の異文化への理解に繋がっていくことを願いたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

中野鷺ノ宮雲母保育園



テーマ【 自然 】

設定した理由・背景

普段から、天気の良い日には戸外活動を積極的に行うようにしている。戸外では、子ども達が草や木を観察したり、咲いている花を愛でたりする姿が多く見られる。木の枝や木の実、石などを何かに見立てて遊んだり、製作に用いたりすることも多く、自然物に対して非常に興味を持っている。自然との関わりをより深めるため、このテーマを設定した。

用意した環境設定

- ・自然を観察できる環境、自然を使って作る環境を準備した。
- ・購入物品
手作り椅子キット

活動のあゆみ

通年 戸外活動で木や花を探し、遊びに活用。
気になるものを持ち帰る。

5月 戸外で見つけた花や葉、木で製作する

5月～ 野菜の栽培を行う。

8月 お泊り保育に参加し、奥多摩で自然探しをする。

12月 建築現場見学。

木の骨組みを見る。

1月～ 椅子製作を行う。

2月 作品展で森（木）の製作を行う。

✧探究活動の実績✧

保育者からの「いつも、みんなが拾ってくる葉っぱとかお花は、全部同じかな」という問いかけから探究活動を開始した。

子ども達からは「違うよ。これは落ちてたし、こっちは木から生えてた」「お花と草は違う」などの声があがる。

◎子ども達の様子

普段の戸外活動では「見て、大きい葉っぱ」「それ顔みたいな穴が開いている」など考えたことを伝えあう姿が見られる。

気に入った花を集める姿も多く、花束にして保育者や友達に渡す姿が見られた。花を押し花にできることを伝えると、園に持ち帰った花は、押し花にして家庭に持ち帰り家族にプレゼントする様子も見られた。

お泊り保育の散策活動では、虫を見つけて友達に説明したり、草を握りしめ「保育園の二十日大根と同じ」と園で栽培した野菜を思い出し、比較する姿が見られ、普段とは異なる大自然の中で、より興味や関心がわいている様子うかがえた。日常の戸外活動では、木を拾って自由に製作する姿があり、身近なものが木で出来ている事にも気づく。木で作ることに興味が出てきたため近隣の戸建て建設現場を見学すると、材木がクレーン車で運ばれている様子に「あの木長い」「何キロぐらいあるの」「どこに生えてるの」など様々な疑問が浮かんでいる様子だった。木の椅子作りでは、木材の場所によって釘の打ちやすさが異なることに気づき、工夫して作る姿が見られた。森をテーマにした全園児での作品展では、5歳児クラスは、イメージを出し合いながら大きな木を製作しており、友達と協力して一つのものを作る達成感を得ることも出来た。身近にあり日常の何気ない存在だった草木や花、虫などが探究活動を行うことで、子ども達にとっては、愛でるもの、観察するもの、作るものなど、これまでとは違った見え方に変化した。



葉や枝で製作する様子



奥多摩で散策する様子



木の実の集を観察する様子



建築現場を見学する様子

まとめ

普段何気なく歩いている道でも、保育者の声掛けによって、周囲の自然に対する子ども達の見方が変わることを実感した。

お泊り保育で訪れた奥多摩は、自然があふれており、子ども達の知りたい、見つけたい、探したいという思いを掻き立てているように見受けられた。普段あまり意見を主張しない子どもも、見つけた虫を手に乗せて、みんなに見せてあげるなど、活き活きとした姿が見られた。子ども達の、気になる、もっと知りたいという思いを言動から読み取り、思う存分探究活動ができるよう環境環境設定をしていきたいと感じた。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

中野鷺ノ宮雲母保育園



テーマ【 身体の仕組み 】

設定した理由・背景

中野鷺ノ宮雲母保育園では、毎年姉妹園対抗リレーに参加しているが、これまで一度も勝つことがない。姉妹園対抗リレーに勝つことを切望する子ども達の姿から、早く走るためにはどうしたらよいかという視点で体の仕組みを探究する。

用意した環境設定

- ・考えたトレーニングを実行できる環境
- 体づくりを意識した食環境
- ・購入物品
- ラダー、縄跳び、大縄、ラインマーカー、
- 電子ホイッスル、万歩計、食材カード

活動のあゆみ

- 4月 姉妹園リレー大会に向けての話し合いを行う。
戸外で走る。
体の各部位の疲労感を確認し合う。
- 5月 姉妹園リレー大会に参加する。
- 6月～ 縄跳びを行う。
体の機能に関する絵本や図鑑を見る。
大縄跳びを行う。
万歩計を付けて活動する。
ラダーを使って遊ぶ。
- 10月 運動会で徒競走を行う。
- 11月 姉妹園リレー大会に参加する。
- 2月 栄養士と一緒に食品の栄養素を考える。

✧探究活動の実績✧

「リレー大会で1位を取りたい。どうやったら取れるかな」という子どもたちの声から身体についての探求活動が始まった。「いっぱい走る」「足が速い人に教えてもらおう」といった声が上がった。◎子どもたちの様子走るのが得意な保育者からのアドバイスを聞き様々なトレーニングに取り組んだ。マラソンやラダー、筋トレを行うと身体の変化に気が付いていた。「走った後は心臓がドキドキする」「筋トレの後は筋肉が痛くなる」といった声が上がった。動いた後に身体の形をした絵にどこが痛かったか色を塗る活動をする子どもによって痛い所が異なった。「私は足だけ〇〇ちゃんは腕なんだね」と不思議そうにする姿があり「人によって身体の動かし方が違うのかな」と自分達なりの答えを見つけていた。1回目のリレー大会が終わり反省を元に作戦会議を行った。「走ってる途中で疲れてしまいスピードが落ちてしまった」という声があがると「もっと体力を付けたいんじゃない」と声上がり「1日にどれくらい動いているんだろう」という疑問が出た。そこで万歩計を付けて1日の活動量を調べてみると、戸外活動がある日と室内活動のみの日で活動量が違うことに気がついた。「室内でも身体を動かせたらいいね」と言うことで縄跳びも積極的に行う姿が見られた。また、食育活動を通してタンパク質は筋肉を育てるのに大切と言う事を聞くと「筋肉付けたらもっと足が速くなるかも」と声上がり、栄養士に協力してもらい詳しく教えてもらった。身体の調子を整える食材やタンパク質が豊富な食材、血液が綺麗になる食材等表や食材の写真を見ながら詳しく知る事ができた。また、タンパク質ばかり摂ればいいと言うことではなく様々な栄養をバランスよく摂る事が大切と言う事を聞いた。そこで自分たちで栄養を考えながら、卒園遠足のお弁当のメニューを考えることに挑戦した。料理の本を見ておかずを選びながら何の食材が使われているかを調べどんな栄養が入っているのか表で確かめていた。栄養が偏ってしまい難しさを感じる姿も見られたが、子どもたち同士で話し合っってバランスの良いメニューを作り上げる事ができた。その日から給食のおかずを見て「お肉はタンパク質だよ」と食材と栄養に興味を持つ子が増えた。



運動後に疲れた箇所に色を塗る様



ラダーに取り組む様子



万歩計を付けて活動する様子

まとめリレーで1位になりたいという共通の目標を掲げ、一人ひとりが身体についてよく考える活動となった。体の仕組みについては、筋肉や骨のほか、目や口についても興味を持つ姿が見られ、一つの目標から始まった探究活動が「速く走ること」以外の探求にも広がりを見せたことに驚きを感じた。栄養士と筋肉をつけるには、どんな食べ物が良いかを一緒に考えたり、献立の成り立ちを調べたりもしており、併せて食に対する興味を引き出すことも出来た。万歩計を使用した活動は、数字が増えることに面白さを感じていたようだったが、歩数と身体の変化を関連付けられるように、記録を付ける考える時間を設けても良いのではないかと感じた。本活動は、保育士だけでなく、栄養士も一緒に探究することが出来たが、看護師も一緒に取り組めば、更に良い活動になると思われるので、次回に活かしたい。